

# 教職支援室便り (4月号)

令和3年 4月 9日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

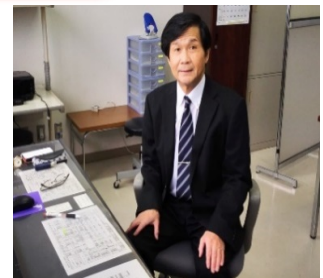
☎0985-20-4808



## 教職支援室担当者あいさつ

教職支援室を担当します、曾我文敏（そが ふみとし）です。平成29年度から、教職支援室を担当しています。本年度も、教職課程の学生の皆さんへ、誠心誠意支援をしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、この教職支援室便りにつきましては、本年度も毎月第2金曜日に発行していきます。教員採用試験に関する情報、試験に向けて取り組む学生の皆さんの様子、教職課程の授業、教育に思うこと、教育に関する様々な情報等について発信していきます。教職支援室便りが、多くの皆様に見ていただけるよう、内容を工夫しながら、作成に取り組んでいきたいと思えます。



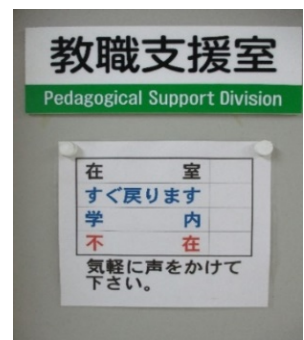
## 昨年度・教職支援室活用量

### 「延べ471名」

昨年度も、多くの方々に教職支援室を活用していただきました。本当に感謝の気持ちで一杯です。コロナウィルス対策の中、電話やメール等で相談された方を含めると、3月31日現在で、「延べ471名」の皆さんに活用していただきました。

教職支援室の責務は、本学の学生の皆さんはもちろんのこと、卒業生、学校現場の先生方、教育関係機関の皆様等への支援であると考えます。具体的な支援としては、教職課程の授業（生徒指導、道徳教育、教育実習、教職実践演習）や、教員としての資質・能力の向上を目指す教職特別講座、更には地域貢献を目的とした講義・講演活動などです。

学校教育を取り巻く問題・課題は、年々深刻さを増しています。本年度も、更に多くの皆様にご利用いただけるよう、業務の充実に努めていきたいと思えます。



## 教職課程履修説明会（新入生対象）終わる

4月6日（火）、教職課程履修説明会（新入生対象）が開催され、教員免許を取得するための単位数、教育実習、教員採用選考試験合格実績、教職支援室の主な支援内容、学校現場での体験活動、小学校教諭免許状取得等についての説明が行われました。当日は、多くの新入生の皆さんの参加があり、とてもうれしく思いました。

公立大学において、教職（免許取得）を目指す学生の皆さんは、単位取得に係るカリキュラム編成など、課題を克服しながらその目標に向かって取り組んでいます。新入生の皆さんが、「教師になりたい」、「免許を取得したい」という思いを、持ち続けてほしいと願うばかりです。確かに、学校現場には多くの問題・課題がありますが、やりがいもたくさんあります。問題・課題とともに教職の魅力を、1年生の皆さんにも適時伝えていきたいと考えています。

### 《新入生の感想》

- 自分は教員になりたいと、完全に決めていませんでした。しかし、今日の説明会を聞いて、教員の仕事への興味が強まりました。もう一度よく考えてから、履修するかどうかを判断したいと思います。
- 教員採用選考試験の合格率が、全体で6割を超えていることに驚きました。一次・二次面接の指導も、希望者に合わせて、何度も行われていることもいいなと思いました。小学校教諭の免許状もとれるのは、魅力的だと思いました。
- 宮崎公立大学の教職サポートは、手厚く充実していることが伝わりました。教職を目指す上では整った制度があり、とてもよい環境で学べると思いました。進路について、まだ迷っていますが、よく考えて自分の選択科目を決めたいと思いました。

## 卒業生からの便り

令和2年3月に卒業して教職に就いた皆さんは、教職1年目が終わりました。新規採用されて1年間は、学級担任（副担任）をしながら、初任者研修に取り組みます。また、学校の1年を見通せない中で、業務を遂行しなければなりません。本当に大変な1年だったことでしょうか。しかし、様々な問題・課題に直面する中で、教職に就いた喜びを感じることもあったのではないかと思います。

卒業生からの便り（メール）を紹介します。

ご沙汰しています。曾我先生、お元気ですか。

1年前、「がんばれ！」と送り出してくださったのが懐かしいです。

私は、小学校4年生の担任をした1年目が、無事に終わりました。大変なこともたくさんありましたが、修了式の日には、子どもたちと一緒に涙を流して、よいお別れをすることができました。

実際この1年は、苦しいことや大変なことばかりで、楽しいことや嬉しいことはほんの少しでした。しかし、子どもたちのちょっとした成長や、楽しそうな笑顔を見られるのがものすごく嬉しくて、子どもたちからがんばるエネルギーをもらい、なんとか1年乗り越えることができました。来年度は3年生の担任をする予定なので、さらに精進してがんばります。

直接お会いしてご報告したかったのですが、行けそうにもなく、メールでのご報告で申し訳ありません。4月からもお体に気をつけて過ごしてください。また、宮崎に行った時には、お会いできたらなと思います。また、連絡させていただきませぬ。

この便りの中には、「実際この1年は、苦しいことや大変なことばかりで、楽しいことや嬉しいことはほんの少しでした。しかし、子どもたちのちょっとした成長や、楽しそうな笑顔を見られるのがものすごく嬉しくて、子どもたちからがんばるエネルギーをもらい、なんとか1年乗り越えることができました。」などにあるように、「確かに大変な職務ではあるが、それだけに、やりがいがある。」という思いが伝わってきます。

この便りにより、私もたくさんのエネルギーをもらいました。

## 教員採用試験・面接試験の重要性その2

先月号から、教員採用試験における面接試験の重要性を踏まえ、これまで教職特別講座（旧：勉強会）で活用した、「面接試問例」を掲載しています。面接試験では、人物を評価するために、様々な角度から面接試問が行われます。受験者の皆さんは、自分のよさを十分に表現できるよう、多くの試問例を活用して、演習しておくことが必要です。

先月号では、43の試問例を紹介しましたが、今回は75の試問例を紹介したいと思います。

- |                       |                         |                 |
|-----------------------|-------------------------|-----------------|
| ○教育実習の思い出             | ○通知表の認識                 | ○教育実習で困ったこと     |
| ○生徒指導の目的              | ○積極的な生徒指導とは             | ○自己指導能力とは       |
| ○自己実現とは               | ○生徒指導の3機能とは             | ○教師として高めていきたいこと |
| ○人間関係で悩んだこと           | ○悔しかった経験                | ○これまでの人生における困難  |
| ○挫折した経験               | ○感動した経験                 | ○ストレスに対する力      |
| ○ストレス発散法              | ○忘れられない恩師の言葉            | ○子どもたちに伝えたいこと   |
| ○学校現場での達成感とは          | ○「なぜ勉強しないといけないのか」と問われたら |                 |
| ○一次試験の感想              | ○本県を志望した理由              | ○教師志望の理由        |
| ○他自治体の受験状況            | ○赴任先の希望                 | ○本県の魅力          |
| ○本県の教育施策              | ○本県の求める教員像              | ○どんな学校をつくりたいか   |
| ○教育とは                 | ○教育的愛情とは                | ○使命感とは          |
| ○学び続ける教師とは            | ○豊かな心とは                 | ○教師になっての夢       |
| ○好きな言葉                | ○大切にしている物               | ○尊敬している人        |
| ○最近読んだ教育書             | ○長所と短所                  | ○不得意なこと         |
| ○趣味                   | ○決断する力                  | ○得意なこと          |
| ○失敗から学んだこと            | ○「生きる力」を育てること           | ○「ぬくもりのある先生」とは  |
| ○子どもたちの存在の尊さを感じた経験    | ○子どもたちにどんな夢を与えたいか       |                 |
| ○教師の仕事以外で頑張りたいこと      | ○災害に遭った子どもへの支援          |                 |
| ○不審者対応などの危機管理意識       | ○大学の学びで現場に生かせること        |                 |
| ○大学生生活で自慢できること        | ○問題点を洗い出し改善した経験         |                 |
| ○教育公務員と他の公務員の違い       | ○他の人にした行為でよかったこと        |                 |
| ○人生で一番よかった思い出         | ○席替えをする際の留意点            |                 |
| ○連絡なしに休んでいる子どもへの対応    | ○初めて子どもたちに話すこと          |                 |
| ○コミュニケーションが苦手な子どもの指導  | ○学校は働きやすい職場と思うか         |                 |
| ○学生生活で一番充実感を味わったこと    | ○リーダーシップとは              |                 |
| ○いじめが発覚したときの対応        | ○保護者からの苦情への対応           |                 |
| ○生徒間のもめごとへの対応         | ○人とのつきあいで大切にしてきたこと      |                 |
| ○組織の中で行動するとき大切なこと     | ○「きめ細かな指導」のポイント         |                 |
| ○自分の個性や長所を生かすことができた経験 | ○日常生活の中で常に心がけていること      |                 |
| ○仕事のことで悩んだとき誰に相談するか   | ○最近がんばっていること            |                 |

# 道徳の教科化に思う！（シリーズ47）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、「教材・忘れられぬ一言・指導資料その1」として、教材の見方・考え方についてまとめました。

なお、今回は、本教材に関する発問構成等について掲載します。

## 1 教材名「忘れられぬ一言」

## 2 出典「副読本」 日本文教出版

## 3 対象学年 中学校2・3年生

## 4 ねらい 内容項目C－（14）「家族愛、家庭生活の充実」

家族の愛情を感じながらも、素直に受け止めきれない、人間の一面があることにふれながら、家族の愛情の尊さを感じ、互いに信じ合い、助け合って家族の絆を深めようとする心情を育てる。

## 5 教材内容（概略）

本教材は、主人公が中学生時代に友達とけんかをし、怪我をさせてしまったことを通して父の愛情に気付く、というストーリーで構成されている。

担任の先生から家に連絡が入り、納得のいかない主人公を連れて、父は怪我をさせた友達の家へと謝罪に向かう。中学生になってから、父を避けるようになっていた主人公は、自分を悪者だと決めつけているような、父の言動に腹を立てるが、友達に謝罪を終えた後の父が、主人公に向けた言葉「しかし、おまえがそこまで怒るなんてことは、そうあるものじゃない。よっぽどのことだったんだろう。俺はおまえを信じているからな。」に愛情を感じ、忘れられない一言になる。理不尽さを感じながらも、その裏にある父の愛情に気付いていく。

## 6 教材の見方・考え方

本教材は、5つの場面「①父のしつけや性格について、②友達とのけんかとその原因について、③先生から連絡を受け謝る場面、④帰り道で父の言葉を聞く場面、⑤現在の自分が父への思いを語る場面」から構成されている。その中に、子どもになんと思われようと、自分の信念を貫き通した父の、不器用な生き方が描かれており、友達を殴った息子をとがめながらも、息子のすべてを理解し信じ通そうとした、父の思いが伝わる教材である。生徒には、問題場面において、主人公の気持ちを中心に考えさせながらも、多面的・多角的に父の思いも併せて考えさせるようにし、主人公が感得する父の愛情に気付かせていきたい。

指導においては、教材導入後、まず「しつけにとっても厳しく、ちょっとしたことでいっつもどなられていた」、「他人にとっても気を遣い、他人に迷惑をかけることをとてもいやがった」など、父のしつけや性格についておさえておきたい。これらは、他者に誠実でありたいとする父が、子どもを厳しく育てようとした表れであり、④の場面「あんなに厳しい父に不満ばかりもっていたが、自分を一番理解してくれていた」、⑤の場面「子どもになんと思われようと、自分の信念を貫こうとした」などにつながるものである。また、友達とのけんかとその原因については、どうしても我慢ができなかったことや、どんなことがあっても、先生には言いたくない内容だったことなどをおさえる。これらは、後の場面において、理由を言えずにいる中で謝ったり、父の言葉に腹を立てたりするなど、主人公の悶々とした心情に、生徒を共感させる際に重要である。



展開前段の前半においては、先生からの連絡に父が応対する場面から、友達の家で謝る場面までを取り上げる。この場面では、父の様子「何度も何度も先生にわびを入れて」、「情けないくらい頭を低く垂れ」、「何度も申し訳ないと繰り返す」などを示す中で、「主人公の立場になったとき、皆さんは父の態度を見て、どのような気持ちになりますか。」と問い、主人公の父に対する不満な気持ちを多く出させる。その上で、それに共感させる補助発問（主人公を批判することにより、生徒に主人公を弁護させる補助発問）「主人公は友達を殴ったのですから、父に不満な気持ちをもつのはどうなのでしょう。」を投げかけ、自分との関わりの中で、生徒と主人公を一体化させる。また、一方で、父の心情についても、十分に考えさせる場面でもある。しつけにとっても厳しく、ちょっとしたことでいつもどなっていた父が、怒りもせず何も言わずに背広に着替え、無言で歩き続けたことを捉え、「息子によっぽどのことがあったと、すでに分かっていたのではないか。」など、多面的・多角的に、父の息子に対する思いを考えさせたい。ここでは、息子は気付いていないが、生徒に父の真の気持ち（息子への愛情）を、少しずつ感じさせるようにする場面である。

展開前段の後半においては、父が不意に「どんなに腹が立っても……。～俺はおまえを信じているからな。」を言う場面を取り上げる。主人公の腹立たしい気持ちとは対照的に、父が不意に言った言葉の中に、息子のことを信じる気持ち（よっぽどのことがあったのだろう）をずっと持ち続けていたことに気付かせたい。不器用な父は、突然でしか、そのことを言えなかったのである。このことを踏まえ、父の「俺はおまえを信じているからな。」という言葉、何度も繰り返しているときの主人公の心の中に、何度も何度も先生にわびを入れて、情けないくらい頭を低く垂れて、申し訳ないと繰り返して謝った父の姿が、映像として大きく浮かんで来たことを話し合い、どんな思いが込み上げてきたかについて、じっくりと考えさせたい。そして、声が涙でかすれていたときの父の気持ちも多面的・多角的に話し合わせ、生徒に子を思う父の愛情を感じさせるとともに、いつも厳しく接してきた父であったが、自分のことを理解し見守ってきてくれたことを、瞬間的に感得した主人公を浮き彫りにする。

展開前段の終わりにおいては、「今主人公は、父にどのような思いをもっているでしょうか。」と問い、主人公の父に対する思いを話し合わせる中で、父の無私な愛を自覚していること、また、父親になった今、自分も家族を大切に、愛することを誓っていることに気付かせたい。